

代官山MEDICAL 卒業生の勉強法 ⑪



●毛利悠汰君による日本医科大学の傾向と対策

—Part2—

日本医科大学3年 毛利悠汰君

English

■ 英語

日本医科の英語は比較的時間も長く与えられているため、杏林や東邦のようにそれほど時間を切り詰めて解くという問題ではありません。時間が十分に与えられている分、下線と訳や内容吟味では試験をこなすワザではなく、英文を読み理解する実力が試されていると感じます。配点は300も与えられているため、非常に差が開き易いと思います。問題数が膨大に多いわけでもないので、間違いなく一問一問に対する配点が高くなっています。したがって和訳問題や自由英作での減点が命取りになります。他教科の難易度を考慮すれば英語次第で十分に苦手教科のカバーも可能です。数学は非常に難しく、合格者は堅く理科で点を取ってくるので英語は最も大切な科目だと言えるでしょう。英文の内容は新設大学のような医学に偏った内容の文章ばかりでなく、一般的な内容の文章が出題されています。哲学や倫理などの背景を持っていれば多少有利かもしれませんが、対策として他大の過去問を解く際にそういった内容の問題を扱い、苦手意識をなくすとともに背景を養うと良いと思います。

下線和訳では当然ながら精確な文法に基づいた和訳が求められています。配点が高い分、部分点による減点箇所も多くあり、フィーリングで解いてしまうとかなり痛い目を見るはず。自分が浪人生の頃、やっていたとても良かったと感じたのは【英語構文γ】のテキストでした。短めで中身の重い文章を文法を駆使して徹底的に和訳すると間違いなく力がつくはず。何度も繰り返し復習していると一番初めの和訳がいかに稚拙かが自覚できました。石井先生や講師の先生方に協力してもらって何度も添削してもらおうとよりよいと思います。

自由英作は大問の一部としてではなく一つの大問として出題されているところからしても、それなりの配点を与えられていると考えられます。中学生レベルの英語でも表現できるのであれば白紙を避け何かしら記入しましょう。自由英作は自分の知っている英語をアウトプットする訓練が必要です、戸川先生などの授業で扱っている英作文の予習復習をしっかりとこなし、さらに友人の表現方法を利用して新たに書き換えてみると良いでしょう。

また、日医の英語科の担当者に聞いてみたところ、2011年度[Ⅲ]は満点がほぼ0だったとのことでした。問題作成者側は英語における敬語表現まで求めていたようですが、ほとんどの受験生が十分な表現が出来ていないようです。ネイティブの先生が出題採点しているため、細かなニュアンスの違いまで見られているようです。

■ 総括

これまで自分が浪人の際に使ってきた参考書を何冊か挙げてきましたが、もちろん基本となるのは代官山の講義でいただいたテキストです。どんなに良くできた参考書を使うことよりも授業で扱った内容の予習と復習を優先してください。特に復習は教わったその日のうち、問題を解いたその日のうちにやってください。記憶は自分が考えている以上に速く忘れられていくものです。どんなに忙しくても、夜遅くなくても、寝る前には必ず仕上げましょう。赤本などを数多く解き各大学別に対策を練ることに専念するのではなく、春から続けてきた地道な積み重ねを信じて努力すれば、想像以上の力を発揮できると思います。